

コミュニティゴルフで ゴルフ振興と地域に貢献

(公財) 日本ゴルフ協会が主催する

R&A公認「コミュニティゴルフ」の

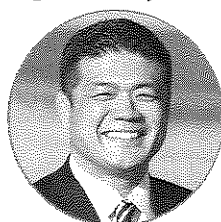
パイロット版事業を、鹿沼市の協力の下、

11月から鹿沼グループが運営する。

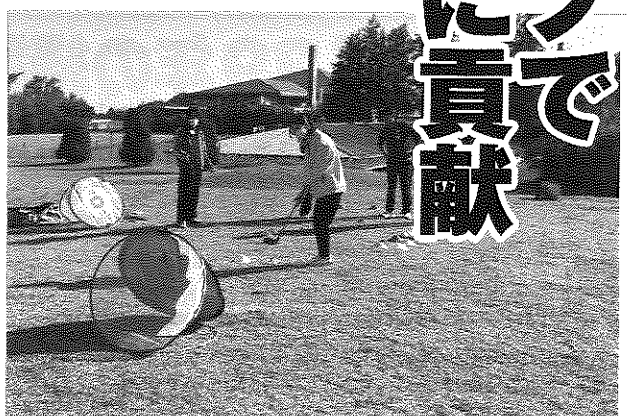
コミュニティゴルフとは何か、どのような

経緯や内容で運営を行うのか。

鹿沼グループ代表取締役の福島範治氏に話を聞いた。



鹿沼グループ
代表取締役 福島範治 氏



—GOLF ITとは？

福島 9Hのゴルフコースのほか、トップトレイサーを設置したゴルフレンジやシミュレーションゴルフ、フットゴルフ、パークゴルフ、パターコース、カスタムフィッティング、フードコートにサイクリングコースもあり、子どもから大人が気軽に楽しめるゴルフ施設です。ぜひ視察したいと思い、(公財) 日本ゴルフ協会(JGA)に相談しました。

—それで、どうしたのですか。

福島 R&Aの人が4月に日本に来るといので、JGAにお願いして会わせてもらいました。その際に、当社が地域の子どもたちや家族に実施している花火大会やごるふあみふえすなどの取り組みについて紹介しました。すると、「あなた方の活動は、R&Aのゴルフデベロップメント部門のコンセプト(Family・Community・Education)」と一致している」と共感していただき、英国に来てくれと、24年7月に行われたGOLF IT視察オーブニングレセプションに招待されました。

—視察して、GOLF ITでゴルフ場の利活用ということに？

福島 GOLF ITのコンセプトを

—「コミュニティゴルフ」のパイ

ロット版事業を運営するきっかけや経緯についてお聞かせください。

福島 当グループの「また来たいと思ってもらえる次のゴルフ場を創り出す」というビジョン実現に向けて、ゴルフ場を活用して何かできないかと、ここ2年間事業を探索してい

たことが、もともとのきっかけです。

リゾート事業はどうかと、健康をテーマにした阿蘇ファームランドや自然を活かしたアクティビティなどが楽しめるネスタリゾート神戸、癒・食・知がテーマの商業リゾート施設のVISONなど、国内のリゾート施設を10カ所以上視察し、コンサル

タントの提案も聞きましたが、ピンと来るものがありませんでした。そうしたなか、2023年冬に「GOLF IT」(ゴルフ・イット)がオーブンしたとの記事を見ました。随分前に、R&AがグラスゴーにGOLF ITを造ると知ったときから関心があったので、コレだ！と。



GOLF ITのアドベンチャーゴルフ。「宇宙」「持続可能性」「スコットランドの荒野・溪谷・湖」のコースを探索しながら、バッティングをする

学び、日本でやってみるかという話もありましたが、R&Aとの話し合いのなかで、GOLF ITの施設づくりが日本に合うのか、日本人に合うようにローカライズできるのか、持続可能かどうかなど検討し、GOLF ITをそのまま日本に持つてくるのは難しいと判断しました。すると、R&Aから「自分たちに何かできることはあるか？」と聞かれたので、7項目を挙げて、これらをやりたいので協力してもらえないかとお願いしました。そのなかの、「ゴルフ未経験の子ども向けプログラ

ム」と「ゴルフ未経験の子どもたちを指導するインストラクター養成プログラム」なら提供できるので、やってみたらどうかと言われました。それが今回の「コミュニティゴルフ」です。ゴルフの裾野を広げるためにも大事な取り組みなので、やりたいと思いました。

R&Aのプログラムを受領 JGAとともに運用準備

——コミュニティゴルフとはどういうものですか。

福島 英国のGolf FoundationがR&Aの支援を受けて開発したプログラムで、ゴルフに触れたことのない子どもたちにとにかく楽しんでもらうこと、ゴルフに興味をもってもらうことを目的としています。スナッグゴルフのような専用の道具を使用してボールを打つのに当てたり、転がしたり、様々なゲームを行います。米国のファーストティのような、教育的要素もあるのですか。

福島 はい。ゲームを通じて、「ポジティブな自己内省」「集中」「視覚化」「感情のコントロール」「自己自身に対する思いやり」「ポジティブな自己対話」（自分の）パーソナル

ベスト」「ポジティブなボディランゲージ」「目標設定」といった9つのライフスキルを教えます。コミュニティゴルフはゴルフの普及とともに、小さいときからゴルフのライフスキルを学んだ子が社会に出て活躍し、地域を豊かにすることを目指しています。地域と協力して実施できないだろうかと、R&Aが推薦状を書いてくれたので、それを持って鹿沼市と交渉しました。

——鹿沼市の反応はどうでしたか。

福島 ゴルフ場開放イベントなどを通じて市とは関係がよかったこともあって、前向きに聞いてくれました。25年5月にR&Aアジア責任者が来日した際に、鹿沼市とJGA、当社の4者でミーティングをし、市が全面的に賛成してくれたことから、R&Aから「コミュニティゴルフを日本に導入するなら、最初は鹿沼市と鹿沼グループが動くのがよいのではないか」と言っていたが、6月にJGAがR&Aから「R&Aインストラクター養成プログラム」と「インストラクター養成プログラム」を受領し、R&A公認のコミュニティゴルフをJGA主催、鹿沼グループが鹿沼市の協力の下、パ



10月30～31日にJGAのナショナルチューターを招いて、従業員がインストラクター資格を取得するための認定講習会を行った

イロット版事業として運営することになりました。その後、11月の事業開始に向けて、JGAと一緒に準備を進めてきました。

——どのような準備をしたのですか。

福島 まず、JGAと協力して受領した2つのプログラムの日本版を作成し、専用の道具を英国から取り寄せました。そして、JGAの担当者がタイで行われたR&Aの「チューター育成講座」を受講し、コミュニティゴルフのインストラクターを養成する「ナショナルチューター」の

資格を取得しました。10月30、31日に当社の社員10名に認定講習会を受講してもらい、コミュニティゴルフのインストラクターの資格を取得してもらいました。

——インストラクター資格取得は、社員のなかから希望者を募ったのですか。

福島 いいえ、コミュニティゴルフは、まず楽しんでもらうことを大事にしており、ゴルフの上手い下手も関係ないので、ゴルフ未経験の小学生を相手に楽しく指導できそうかを鑑みて選び、協力をお願いしました。

3カ年計画を立て 市内小学校の授業に導入

——コミュニティゴルフのパイロット版事業はどのように行うのですか。
福島 ゴルフ普及の新たなモデルケースとして、鹿沼市内の小学校の授業への導入を目指しているのですが、いろいろ調べると学習指導要綱という大きな壁があり、授業に取り入れてもらうのは簡単ではないことが分かりました。そこで、11月に鹿沼市に対して説明会を行い、次に市長や教育委員会の関係者、小学校の先生方を招いて、11月と12月に体験

会を行います。実際にプレーして楽しんでもらい、コミュニティゴルフはどういうものなのか、危なくないことなどを知ってもらいます。そして、来年1月に鹿沼市の子どもたちをゴルフ場に招いて、コミュニティゴルフのイベントを行う予定です。

——体験会やイベントの次は？

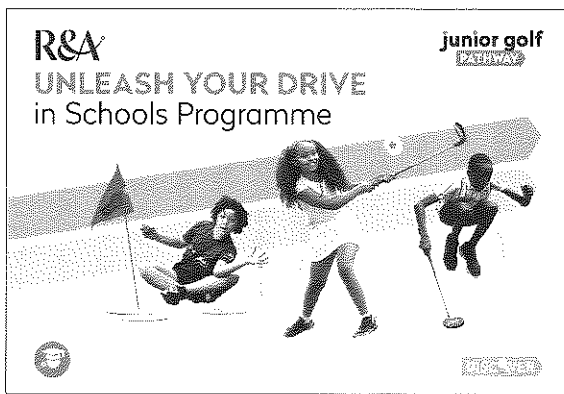
福島 具体的には体験会を実施してからになりますが、学校の授業やクラブ活動にしっかりと落とし込めるように、来年から3カ年計画を立てて取り組んでいきます。1年目は、市の教育委員会や市内の小学校に働きかけて、体育または総合学習の授業にコミュニティゴルフを取り入れてもらい、しっかりと実践することに注力します。2年目、3年目は市内の複数の小学校の授業にコミュニティゴルフを取り入れてもらうとともに、栃木県内の他の自治体にも広めていけたらと考えています。ゆくゆくは県外も含め、多くの小学校の授業でコミュニティゴルフが実施されるように活動していきたいです。

——小学校でコミュニティゴルフの授業をする場合、インストラクター資格を持つ御社の従業員が指導するのですか。

福島 いいえ。最初はボランティアでお手伝いすることもあるかと思いますが、本格的にコミュニティゴルフを授業に取り入れるとなれば、先生方にインストラクターの資格を取得してもらうこともあるかと思っています。そうすると、行政とゴルフ場が組んだゴルフアを増やす取り組みとして、コミュニティゴルフは最適だと思っています。

——なるほど。ところで、コミュニティゴルフのきっかけはゴルフ場の利活用だったと伺いましたが、どのように繋がるのでしょうか？

福島 今はゴルフ場の利活用は度外視でボランティアで活動しており、まずは多くの子どもたちにゴルフに触れてもらうことでゴルフ振興に協力し、地域に貢献したいと考えています。そのためには、今回のパイロット版事業を成功させなければなりません。成功したら、その事例が全国に広がればよいと思っています。ゴルフに触れる子どもたちやゴルフアが増えたら、GOLF ITのような気軽に楽しめる施設を造るなど、次に繋がることを生み出していきたいと考えています。



R&A から受領した「R&A インスクールプログラム」(上)と、英国から取り寄せた専用の道具 (下)